

第4回 瀬戸内市国土利用計画審議会 意見要旨

開催日時	令和4年7月29日（金）14時00分～16時00分
開催場所	瀬戸内市役所2階大会議室
委員 意見要旨	<p>(1) 市民意向調査に関する結果報告（速報）について（資料1、資料2）</p> <p>(2) 市民意見聴取会に関する中間報告について（資料3）</p> <p>(3) 市民意見等の整理方法について（資料4）</p> <p>(4) その他（都市計画制度検討における留意点について）（資料5）</p> <p><b>1. アンケートについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果のうち、アンケート回答者の多くがシングルアンサー指定の問いをマルチアンサー指定の問いと誤解して回答しており、その結果、無回答の割合が高くなっているものがある。それに対して、参考としてマルチアンサーの結果についてもデータで示している。このような設問の集計方法について、参考にすべきはシングルアンサーの方であり、マルチアンサーについてはあまり参考にしない方がよいのではないかと。</li> <li>・若い人の回答が少ないため、瀬戸内市に住んでいる若い人の意見がアンケート結果にあまり反映されないのが心配である。また、身近な地域のコミュニティの活動に関する設問では無回答が非常に多くなっており、地域のコミュニティ活動に対して無関心な人が多いという傾向が強いように思う。こうした問題について我々も行政もしっかり考えなければ、瀬戸内市が衰退してしまう。</li> </ul> <p>（事務局）⇒今後40代で線を引き、別途集計を出そうと考えている。しかし、全体的に若者の回答が少ないという問題については努力不足であったように思う。若い方の回答率を上げる工夫として今回はWeb回答も実施したが、実際にはあまり結果には現れなかった。今後、若者に対する異なるアプローチについても検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果のうち、瀬戸内市の暮らしに関する評価の満足度の結果について、統計結果を部分的に見ると確かに満足度が高い結果となっているものもあるが、全体的には「やや不満」や「不満」の割合の方が高いという結果が多い。全体的には、今の瀬戸内市の現状に満足している市民の方が少ないように思う。</li> <li>・20代～50代の回答率を上げるには、保育園や学校等の協力があれば良いと思う。学校側も中々アンケートに協力する時間がないと思うが、期限を設けて学校側から提出してもらうという方法があれば、回収率も高くなると思う。</li> <li>・アンケートはシニアの皆様は協力的だが、働き盛りの方は忙しくて回答する時間がないという傾向がある。この課題を解決していくための方法について検討していく必要がある。</li> <li>・アンケート結果のうち、暮らしに関する評価の満足度と重要度の散布図について、目盛り</li> </ul>

の幅が縦軸と横軸で異なるため、本当はよりばらつきが大きくなるのではないか。また、「普通」が0点、「やや満足」が1点なのであれば、全体の満足度の平均を見ても、市民の満足度は全体的に低いと思う。このように、図の見方を変えないとミスリードされるのではないか。

- ・小学校や中学校、高校などの保護者にアンケートを実施すれば回収率が高くなるのではないかという話があったが、私もそう思う。このようなアンケートを実施するのか、しないのかについて、教えていただきたい。

(事務局) ⇒今回はアンケートの抽出方法は無作為で行っている。別途、市内の保育園を対象にアンケートを行うなどの方法は有効であると思うため、その実施について今後検討したい。また、アンケートによっては、学校を通して保護者を対象にアンケートを実施する方法のものもすでに存在し、回答率は非常に高い。今後このような方法について、有効なものがあれば扱っていききたい。

- ・クロス集計の結果をみると、居住区によって結果も異なっている。したがって、学校を対象にアンケートを実施する場合、このようなことも考慮し、地域に偏りがないように実施する必要があると思う。

- ・道路・交通に関する設問の結果のうち、最も割合の高いものは「市街地の中や集落の中の狭い生活道路を改善して、安全に通行できるようにする」という項目になっているが、現在、工事を行う土木課には生活道路という名前のものはなく、農道と市道のみとなっている。かつて、町内の農道の道路拡幅の申請をしたことがあるが、工事費用の1割は受益者で負担する必要がある、また、市道については、道路幅員を4 m以上確保できなければ市道として拡幅することができないとのことであった。国土利用計画を進める上で、このような道路拡幅の規制は邪魔になるため、生活道路の整備に関する補助等について、今後検討していただきたい。

(事務局) ⇒実際に道路拡幅の要望も多く、アンケート結果をみても道路拡幅について課題として捉えている人が多いことがわかった。このような結果について、道路の部署の方にも伝える必要があると思う。

## 2. タウンミーティングについて

- ・タウンミーティングは実施回数が多く、さらに市長が直接地域を回られているという点で、素晴らしい取り組みだと思う。タウンミーティングを通して、市長がどのように感じたかについて教えていただきたい。

(事務局) ⇒瀬戸内市の土地利用等について市民の方々に直接伝える機会はこれまでなかったため、市長も今回のタウンミーティングは非常に重要な機会だと考えられていたと思う。タウンミーティングを通して、多くの市民の皆様の声を聞いたことで、瀬戸内市のまちづくりを進める中で何を大事にすべきか確認できたとともに、市民の皆様の要望を実現するための手法が無いことに気付いたと思う。市民の皆さんの声に対して、一つでも多く応

えていけないかと強く感じていたという印象を受けた。今後、市長とスケジュール調整し、タウンミーティングを踏まえて市長がどう感じたかについてお伝えする機会を設けたい。

- ・タウンミーティングでは、どの年代が多く参加されていたか。一つ一つの意見がすごく参考になるものばかりだと思うため、アンケートと同様、若い人の意見についても是非反映していただきたい。

(事務局) ⇒70代以上の方が多く、その次に60代が多い。また、居住年数が10年以上で、コミュニティ協議会や自治会の方、地域の役員の方など、地域の活動を頑張っている方が多かった。

- ・最終的にタウンミーティング全体を通してどのような意見が多かったかについて、簡潔な文字情報と直感的に理解できるビジュアルで示すようなアウトプットの手法について考えていただきたい。また、タウンミーティングの結果について、どのメディアを利用して対外的に公表していくかについても検討していただきたい。そして、瀬戸内市内・市外の人に、瀬戸内市の良いところだけでなく、瀬戸内市の課題についてどのように捉えているかについて、市内・市外の人が理解できるような方法について検討していただきたい。

(事務局) ⇒タウンミーティング以外にも様々な方法で市民の意見を聞いている。これらの多くの意見について、最終的にどのような形でまとめて発信するかについても今後検討していきたい。

- ・タウンミーティングの結果については市民の方々と共有することが重要である。シニアの方が多いため、若い人向けで発信するという手法は難しいと思うが、発信の手法について今後検討していただきたい。

- ・タウンミーティングでは、市長から人口減少などの瀬戸内市の現状や、国土利用計画でできることなどについて説明いただいたことで、参加者の皆さんには、瀬戸内市の将来に向けて動かなければならない時期が来ていることを実感していただいたと思う。

### 3. 市民意見等の整理方法について

- ・神奈川県真鶴町の「美の基準」のように、わかりやすいイラストによって直感的に内容を理解できるようなまとめ方が良い。現在は、表形式で文字情報を中心にまとめられているが、文字だけでなく、キーワードやイラスト、写真などを活用してわかりやすくまとめると良いと思う。そして、最終的に冊子等にまとめたものが市民の愛読書になって、みんなで大切にしていくようなものになれば素敵だと思う。

(事務局) ⇒イラストなど視覚的に示す作業については、地域の中しっかりと入る必要があるため、時間が必要である。次のステージでまとめ方について検討していきたい。

- ・市民意見等の整理方法について、資料4のような形でまとめるという方向性でよいか。委員の皆様の同意が得られるのであれば、このまま進めていただきたい。

#### 4. 都市計画制度について

- ・都市計画導入にあたっては、長期的な視点で市全体をどのようにしていくかについて考えることが重要である。また、都市計画導入によって規制が多くなるイメージがあるが、世界中の住みやすい町にはたくさんの規制がある。このような事実を理解しながら、長期的な視点で瀬戸内市の都市計画について考えていきたい。
- ・現在、長船駅も邑久駅も東側からの入口はあるが、西側からの入口はない。これまでも西側から駅へ入れるように整備してほしいという要望があったが、建物や人員、費用などの規制があったため実現できなかった。3駅の無人化の問題は悲しいものであるが、逆に駅の無人化によって大きな駅舎を建てる必要がなくなるため、小さな改札を設置するだけで駅西側からの入口をつくることができるという良い面もあるように思う。
- ・現在の駅整備計画では、短期的にトイレの整備などを進めているが、長期的には駅西側の入口の整備もイメージとして持っている。しかし、現時点では、駅の整備は錦海塩田跡地の貸付の財源や合併特例債を活用して進めているため、駅整備に充てる財源が十分でない状況となっている。タウンミーティングの中でも、市長は都市計画等の駅整備の財源を確保する手段があれば、より良い市民サービスを提供することができるのではないかと述べていた。
- ・無人駅の方が使い勝手がよい面もある。一方で、今後住みやすいまちを目指している中で、公共交通機関の減便は困るため、その対策について考える必要があると思う。
- ・邑久駅と長船駅の西側には住宅地が広がっているのにも関わらず、西側から直接駅へ入ることができないのは課題であると思う。ぜひ駅西側からも直接駅に入ることができるように整備していただきたい。また、3駅の整備計画の長期計画の中に、駅西側の整備のような計画があったように思う。
- ・昔、駅西側の入口の整備の話があったが、JRが撤退し、実現しなかった。市だけで財源を出したら実現できるかもしれないが、JRは実施しないと思う。現在も3駅の整備計画が進められているが、そのような駅西側に入口を設けるような計画にはなっていないと思う。

(事務局) ⇒長船駅の長期の駅前整備計画では、バリアフリーの観点で、階段に代わるエレベーターを設置するような計画となっている。しかし、JRとしては、現時点では長船駅のエレベーターの設置までは至らず、将来的な計画として位置付けられている。

- ・都市計画導入から効果発現までの流れについて、市の土地利用の基本指針づくりから都市施設の完成・共用開始まで3年で出来るのか、それとも15年以上かかるのか。また、都市計画導入の決定後に、導入を解消することはできるのか。

(事務局) ⇒例えば、都市計画道路は単に一本の道路を評価するのではなく、道路全体を対

象にパーソントリップ調査を実施し、その結果得られる道路交通量に基づいて各道路の必要性について評価することになっている。加えて、都市計画の手続きや地権者への説明、財源確保のための調整などの工程が必要であり、事業完了までに時間がかかるのは仕方がない。

- ・20年先の事業完了までには市長が変わっている。その時の市長の考えで、事業実施を取り止めることもあるのではないか。

(事務局) ⇒市として何を優先すべきかについては、今後市で話し合いながら事業を進めていくことになる。都市計画事業は時間がかかるが、将来の市民のために事業を進めて繋いでいくことが必要であると思う。

- ・調整区域や地域地区の設定など、都市計画を変更して柔軟に対応していく事例はあるが、都市計画法に基づいて都市計画区域を一度設定し、その後完全に都市計画区域を外すような事例は聞いたことがないが、そのような事例はあるのか。

(事務局) ⇒都市計画区域を外すようなことは考えにくいと思う。

- ・資料5について、牛窓のような古いまちなみが形成されている地区では、都市計画導入のデメリットとして現在のまちなみを維持できなくなると記載されているが、このままでは、都市計画導入によって牛窓の景観が失われるという印象を与えてしまう。市民にとって大切なものを都市計画によってどのように守っていくことができるかについて各論的に示した方が良い。

## 5. まちづくりの方針について

- ・若者が市内に定着しないという問題については、瀬戸内市内に自動車でも1時間かけてでも行くべき魅力的な場所があれば、若者を市内に誘導できるようになると思う。

(事務局) ⇒国土利用計画の策定にあたって、まちをどのように魅力的につくっていくかは重要な点だと思うので、検討していきたい。

- ・瀬戸内市全体を見た時に、瀬戸内市のイメージを形成するような重要なポイントを設定し、その場所がどうあるべきかというイメージをつくっていくことも重要である。例えば、ブルーラインや吉井川に架かる橋、JRの駅など瀬戸内市の玄関口になるような場所のイメージについて具体的に作り上げていくべきだと思う。

- ・赤穂線の減便や交通の便が悪いという瀬戸内市へのアクセスの問題に対して公共交通の整備で対策することはハードルが高いが、現在、岡山県が設定しているサイクリングコースのように、例えば岡山市と瀬戸内市を結ぶようなサイクリングコースを整備することは有効であると思う。ソフトの提案として、他市と連動した提案をしていくことも重要であると思う。

以上